



おおとりちゅうがっこうだよ

大鳥中学校便り

だいはちごう
第八号

学校教育目標 ～豊かな心を育み、社会どのかかわりを大切に～

〇感じる心(徳) 〇考える力(知・体) 〇行動する鳥中生(公・関)

よこはましりつおおとりちゅうがっこう
横浜市立大鳥中学校

こうちょう しんじょう ひろし
校長 新庄 広

れいわ ねんど ほんもくがくえんがっこううんえいきょうぎ いかいさい 令和4年度 本牧学園学校運営協議会開催

おおとりちゅう
大鳥中

ほんもくみなみしょう
本牧南小

おおとりしょう
大鳥小



ほんもくちゅう
本牧中

ほんもくしょう
本牧小

まかどしょう
間門小

学校運営協議会とは、地域・保護者の皆さんと学校が目標を共有し、一定の権限と責任を持って学校運営に参画する仕組みです。学校運営協議会は学校と対等の立場で、共有した目標に向かって熟議を行います。学校から様々な情報の提供を受け、学校長が示すビジョンや方針に意見を反映させます。
(令和2年4月発行 横浜市教育委員会事務局 学校支援・地域連携課作成資料から抜粋)

11月28日(月)午後3時から「本牧学園学校運営協議会」が大鳥中学校の体育館で開催されました。本校の学校運営協議会は、すでに本牧南小学校と合同で行われていますが、大鳥中・本牧中学校ブロック二中四小合同で行う学校運営協議会はこれが初開催となります。

学校運営協議会を二中四小合同で行うという構想は、平成23年に齋藤宗明第18代校長が着任したときにスタートしました。地域、保護者、学校が連携し、本牧地区の子どもたちを9年間で守り育てていこうとすることが、各学校のみならず各学校間の組織対応力の強化につながり、「生徒たちが安心して生活できる学校となる」最も大切な取り組みだ、という考えです。

以来、校長を含む多くの人の異動等ありましたが、地道に各学校間の調整、各地域の方々との折衝を重ね、実現の日を迎えることができました。「本牧学園学校運営協議会」の目指す目標等を掲載しますので、ぜひご理解ください。そして、ご協力をお願いいたします。

○本牧学園とは

- ・ 二中四小（大鳥中・本牧中・大鳥小・間門小・本牧南小・本牧小）の小中一貫教育推進ブロックを指します。
- ・ 二中四小ブロック合同学校運営協議会を「本牧学園 学校運営協議会」と呼びます。

○「本牧学園 学校運営協議会」とは

- ・ 二中四小各校の学校運営協議会の委員が一堂に集まり、本牧学園で目指す「9年間で育てる子ども像」等を承認する会として位置付けます。

○「本牧学園 学校運営協議会」の役割

- (1) 本牧学園で目指す「9年間で育てる子ども像」の承認
- (2) 本牧学園で育む「9年間で育成を目指す資質・能力」の承認
- (3) 本牧学園が1年間で取り組む具体的取組の承認
- (4) 本牧学園に関して、情報提供及び意見交換

○令和4年度 「本牧学園 学校運営協議会」 確認事項

1 9年間で育てる子ども像について（平成30年度から継続）

「ふるさと本牧」を担う子どもの育成 ～子ども・家庭・地域・教職員の連携の充実を通して～

- 本牧のまちと関わりながら学び、まちを大切に育てる子ども
- 多様性を尊重し、豊かなコミュニケーション力をもつ子ども
- 学習や生活のよい習慣を身につけ、確実に自分の力を伸ばそうと努力する子ども

2 9年間で育成を目指す資質・能力について

- 主体的に社会参画する姿勢
- 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢
- 夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢

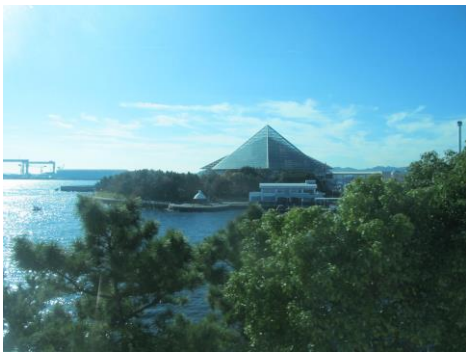
3 具体的取組について

- 二中四小で「いじめ」についての認識及び対応の共有（7月28日）
- 二中四小合同 授業研究会の実施（7月1日、10月4日）
- 二中四小合同 学校運営協議会の立ち上げ（11月28日）
- 各校による「あいさつ運動」の実施
- 各校による社会的スキル育成（横浜市教育委員会の教育プログラム等活用）

11月に行われた行事から

中区中学校個別支援学級合同宿泊学習 11月2日(水)～3日(木祝)

- <目的>
- 1, 班行動や宿泊活動を通して、自立心や責任感、生活力を身につける。
 - 2, 作業やレクリエーションを通して協力することの大切さ、皆で一つのものをつくりあげる達成感を養う。
 - 3, 他校の生徒や教員と関わり合うことで、コミュニケーション能力の育成を図る。



学習室の生徒は、上記の目的を達成するため、横浜市金沢区野島少年研修センターに宿泊学習に行きました。昨年はコロナ禍で中止となりましたが、今年は十分な感染対策を講じることで開催することができました。中区五校の中学校の生徒が、それぞれ交じり合って班を作り、行動や宿泊をします。この行事のために三回の交流会を行い、しっかりと準備しているため、生徒や先生たちは息もぴったりです。初日の八景島シーパラダイスは、班ごとに決めたショーを見たり、水族館をまわったりしました。フードコートでもマナーよく並び、お好みの昼食を購入し、班員で仲良く食べていました。宿舎についたあとは、シーツや枕カバーを自分で挟み込んでいくベッドメイクがとても難しかったのですが、出来た人がうまくできない人に丁寧に教える姿がありました。二日目のフォトラリーも、疲れているなか全員がはぐれることなくやり切れました。二日間とも好天に恵まれ、すべてのプログラムを行い、十分に<目的>を達成することができました。これも、学校の授業や交流会でしっかりと準備をしたからだだと思います。今回の宿泊学習で学んだことは日々の生活でも、生かしていけるはずです。



横浜国立大学教育学部との連携による放課後学習支援 11月～12月

本校では、平成27年度より大学生が個別学習を希望する中学生の学習支援を行う時間を設けています。これは横浜国立大学教育学部の教員志望者中心のゼミ生の授業「教職実践演習」との連携事業で、学校運営協議会の委員である有元典文教授の学生さんが毎年来てくださっています。参加希望の中学生は事前に「教えてほしい教科とその単元」を大学生に伝えます。大学生は実際に使用している教科書・ワーク等の教材を「教え方を工夫するために」学んで、準備してきます。そのため1時間の支援時間が大変有意義なものとなっています。わからないことがわかるようになったときに見せる中学生と大学生の笑顔にはとても素敵なものがあります。